

発達障害の特性をもつ労働者支援モデルの開発ー就
労後に初めてASD/ADHDの診断に至る労働者とその
職場の支援に向けてー

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣田, 幸子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003377 |

論文内容の要約

| | | | | |
|---------|---------|----------------|-----|-----------|
| 学 生 番 号 | 3219009 | 指導 教員 確認 | 主 査 | 上野 恭子 教授 |
| 氏 名 | 廣田 幸子 | | 副 査 | 野崎 真奈美 教授 |
| | | | 副 査 | 櫻井 しのぶ 教授 |

| | |
|--|--|
| 学 位 論 文 名 | 発達障害を抱える労働者支援モデルの開発 — 就労後に初めて ASD/ADHD の診断に至る労働者とその職場の支援に向けて — |
| 訳 タ イ ト ル | Development of a support model for workers with the characteristics of developmental disabilities: With the aim of supporting workers who are diagnosed with ASD/ADHD for the first time after employment and their co-workers |
| 共 著 者 | |
| 論文内容の要約 (1,000 字~1,500 字) | |
| <p>【目的】 「就労後に初めて ASD/ADHD の診断に至る労働者とその職場」における支援モデルを開発する。</p> <p>【方法】 第 1 に、発達障害の特性をもつ労働者の支援経験を有する産業看護職 10 名を対象に、個別支援事例についてインタビューを行い、語りの記述を質的帰納的に分析した。第 2 に、メンタルヘルスケアを担う関係者 17 名に対して、就労後に初めて ASD/ADHD の診断に至る労働者(以下、本人)とその職場の支援事例についてインタビューを行い、語りの記述をグランデッド・セオリー・アプローチの手法により支援方法を生成し、プロセスを明示した。産業看護職による支援方法と照合し、既存の援助技法の視点から検討を加えて支援モデルを試作した。第 3 に、産業保健スタッフ等および地域障害者職業センター相談員の計 60 名を対象に、デルファイ法を用いた質問紙調査を 2 回実施して支援モデルの妥当性を検討、改良した。</p> <p>【結果】 発達障害の特性をもつ労働者に対する産業看護職の支援内容は、11 カテゴリ、5 コアカテゴリが生成され、支援のプロセスを明示した。メンタルヘルスケアを担う関係者による支援は 14 カテゴリと産業看護職と同様の 5 コアカテゴリが生成され、【職場の困りごとのアセスメント】から現状改善に向けた【本人と職場の意向のすりあわせ】や【支援環境づくり】をしつつ、【本人の戦力化の強化】と【職場の対応力の強化】への働きかけであった。これらは職場の困りごとの解決プロセスとして「支援をまわす」と有事に備えた「支援をつなぐ」により<安定の維持>を導き、本人と職場の対応力の強弱に応じて、<挑戦への続行>、<現状改善の中断>に移行するモデルとして試作された。続くデルファイ法による調査から支援項目の 90%が同意され、一部の修正と支援者の役割による特徴を加えて最終的な支援モデルを提示した。</p> <p>【考察】 「支援をまわす」の「困りごと解決担当」は解決全般を担う産業医、人事労務管理を担う人事労務担当者、第三者の視座を担う障害者支援専門家であり、「支援をまわす」の日頃の解決とマネジメント担当は産業看護職、「支援をつなぐ」のモニタリング担当は産業看護職と人事労務担当者であった。</p> <p>【結論】 「就労後に初めて ASD/ADHD の診断に至る労働者とその職場」の支援は、「支援をまわす」の困りごと解決担当と、有事に備える「支援をつなぐ」のマネジメント担当とモニタリング担当の協働より本人と職場の上司や同僚の就労生活の安定を志向するモデルとして示された。</p> | |

